

次期一般廃棄物最終処分場について 市民説明会 質疑応答内容

日 時：令和4年12月6日（火） 午後7時00分から午後8時25分まで

場 所：津久井総合事務所 3階大会議室

【説明内容】

(1) 現一般廃棄物最終処分場の現状について

家庭ごみの処理の流れや現最終処分場の役割、埋立物、浸出水対策について資料に基づき説明を行った。

(2) 次期一般廃棄物最終処分場の候補地選定について

現最終処分場は令和19年度途中まで埋立てが行える見込みであるが、それ以降の最終処分場を整備するため、取組みを進める必要があること。昨年度、候補地選定審議会から複数の候補地の答申を受けたため、審議経過などについて、資料に基づき説明を行った。

【質疑応答】

◎市民 ●清掃施設課

◎ 遮水しているシートについて、耐用年数はどの程度になるのか。

● 遮水シートについては、適切な保護を行えば50～100年程度使用できるとされている。劣化する原因としては、日光が考えられるが、不織布等で遮光すること等で先程お話しした耐用年数は使用できるものと考えられる。

◎ ゴムについては、酸やアルカリに弱く劣化してしまうのではないのか。

● 通常のゴムとは異なり、長期的な使用が見込まれることから耐久性を重視した素材となっており、酸やアルカリなどにも対応できるものとなっている。

◎ 定期的な水質検査については、どのような項目を検査しているのか。

● 廃棄物処理法や下水道法に基づいて、約50項目（金属類、農薬類、揮発性有機化合物等）の検査を実施している。項目により測定頻度は異なる。

◎ 根小屋地区は湧水が非常に多く、最終処分場整備による影響が懸念される。湧水の検査も実施するのか。

また、根小屋地区に設置する場合、山間部になると思われるが、その場合、災害対策等も含めた建設となるのか。

● 仮に設置場所付近に湧水がある場合は、湧水への影響等も調査することになると考えている。

また、仮に山間部に設置する場合は、災害対策を含めた建設となる。大雨と地震について想定する必要があるが、30年に一度、50年に一度の災害に耐えられる施設にしなければならない。現在の第2期整備地については、東日本大震災や南海トラフ地震にも耐えられるように設計している。

◎ 湧水への影響ももちろんだが、浸出水が外部で流失した場合の対応はどのように考えているのか。

水源地に整備しようとする事自体がそもそも間違いであると思うがどのように考えているのか。

また、審議会で検討する際、審議会の委員は現地確認をした上で、検討しているのか。机上だけで選定しているのであれば問題である。

最後に、以前にも話をさせていただいたが、津久井地区への設置、候補地になること自体について反対という立場である。

- 浸出水は、外部へ流出しないよう何重にも対策を行う。万が一、流出した場合は、地中での移動速度を考慮すると、直ちに広範囲に拡散するわけではないが、速やかに対策工事を行うことになる。浸出水を毒のように捉えられがちだが、家庭ごみを燃やした結果の埋立てであり、現在の最終処理場でも水質検査において、毒性の高い物質は検出されていない。

全国に1,600の一般廃棄物最終処分場があるが、日本という地形上、水源に設置している処分場はいくつもあり、技術的には可能である。ただ、技術的に可能であるから良いということではなく、対策をしっかりと講じる必要がある。

また、審議会の委員については、9箇所的一次候補地を現地確認した上で審議いただいている。

最後に、反対というご意見は受け止めていく。

- ◎ 他の説明会の様子を説明してもらおう場がほしい。今後考えていただきたい。
- ◎ 本日の説明会について、参加者が5人しかいないが市としてどのように考えているのか。情報の周知についても、広報やHP等だけでなく各自治会長からの周知など、もっと広く周知できるような形で検討いただきたい。
- これまで30回近く各地区へ説明をさせていただいているが、会によっては少人数の場合もあった。広くお伝えして様々なご意見をいただくことは大切であり、周知方法についても継続して考えていかなければならない。
- ◎ 「不適物」にはどのような成分が含まれるのか、また、鉄なども入ってくるのか。
- ガラス材料である「砂」、瀬戸物材料である「粘土」などに含まれる成分が主となるため、元素としてはケイ素、カルシウム、アルミニウムなどが多く含まれる。

清掃工場の磁選機とアルミ選別機で鉄とアルミニウムを回収しているが、完全には回収しきれずに、一部の鉄とアルミニウムは不適物として出てきてしまうため、最終処分場に埋め立てている。

以 上